

## 北渡島檜山圏域地域医療構想の推進に係る重点課題について

### 1 それぞれの病院における将来的な役割・機能等の在り方と検討

施設の老朽化等により建て替えを計画している「八雲町熊石国民健康保険病院」、「せたな町立国保病院」と近接している管内の公立病院について、将来の人口の推移や患者の受療状況等をふまえ、当圏域の中核病院である八雲総合病院や近接している病院との連携体制を構築し、役割・機能等を明確にすることにより、それぞれの病院の在り方を検討する。

#### 経過

人口減少や、役割や機能の再検証を踏まえた見直しや検討は、**資料 3**のとおり各病院で進められている。

病床機能の変更や削減を行った病院（八雲総合病院、今金町国保病院）、高いニーズを踏まえ、引き続き現在の役割を担う道南ロイヤル病院がある。

また、老朽化等により建替を要する病院においては、次のとおり進められている。

#### （八雲町熊石国民健康保険病院）

建替計画について、想定以上の地域人口の減少を踏まえた、経営の持続可能性の再精査を加え、更なるダウンサイジングを実施。

病床減による医療需要への対応のため、濃厚治療を要する患者の転院調整について、従前以上に八雲総合病院や南渡島の急性期病院との連携を図り、将来的に恒常的な空床が生じた際は、医療から他機能への転換を視野に入れた設計を取り入れる予定であり、将来を見据えた再整理をされた。

#### （せたな町立国保病院）

地域住民の参画に加え、建替候補地の現地視察など、机上での検討に留まらない会議運営が行われている。

また、引き続き慢性期機能を担う道南ロイヤル病院との役割分担による療養病床の廃止や病床機能転換、民間歯科医院との役割分担や設備更新費用などを総合的に勘案した歯科の廃止（診療科の見直し）、医療の場＝病院＋地域になることを見据えた訪看 ST の設置・その後の訪看実績の増加等の「改革プラン」の実施状況の報告も行いながら、建替に係る丁寧な議論が継続的に進められている。

#### （長万部町立病院）

病床機能報告において、病床機能を急性期から回復期に変更された。令和 4 年度から、建替の検討を開始予定。また、休床としている療養病床は、2025 年までに廃止を検討している。

## 2 在宅医療の提供体制の構築に向けた、地域における役割分担の明確化及び連携体制の推進

当圏域内で退院支援から看取りまでの医療が継続的に行われるよう、それぞれの病院の役割分担を明確にするとともに、多職種を含めた連携の推進を図ることで、在宅医療体制の構築を目指す。

### 経過

在宅医療提供体制の推進に向けて、多職種連携協議会事業（保健所事業）に取り組んでおり、「多職種のつどい」と称して、4 町を跨いだ医療保健福祉関係者の連携づくりに努めている。

コロナ禍の影響もあり、令和元年度から延べ7回の開催に留まっており、想定どおりの開催回数には至っていないが、医師や歯科医師を始め、看護職、OT、PT 等様々な職種や、**資料4-2**で取りまとめている介護サービス事業者等にも参画をいただき、参加者の希望を踏まえた講演テーマ等を企画するなどの開催を重ねている。

（令和3年度 実績）

#### < 1 > R3.10.29

- 講演「歯科診療における口腔ケア・オーラルフレイル予防の実際について」  
講師 きたひやま歯科クリニック 院長 堀口 陽祐 氏
- 症例紹介・症例検討

#### < 2 > R4.3.23

- 職種紹介・実践報告  
今金町社会福祉協議会 ケアマネージャー 松浦 恵美 氏  
道南ロイヤル病院 言語聴覚士 中西 俊二 氏  
八雲総合病院 作業療法士 中田 里実 氏
- フリートーク  
「日頃の多職種連携で思うこと、やってみたいこと」

（参考 会場の様子）



### 3 人口減少を見据え、各病院での連携強化による急性期機能の集約化

人口減少を見据え、それぞれの病院の役割や機能を再検証し、各病院との連携により急性期病床の集約化を検討する。

#### 経過

2025 年を見据えた各病院の考え方については、資料 5－1 のとおり毎年実施される「地域医療構想の推進に関する意向調査」により報告されており、調査項目の一部を整理したものが資料 5－2 となる。

- 2 以上の医療機関による再編・統合を予定・検討している医療機関は無い。
- 各病院が今後担うこととしている役割と具体的内容が記載されている。

また、資料 5－3 は、令和 2 年度病床機能報告の一部項目を抜粋したものである。

- 救急医療（休日・夜間の受診患者数や救急車の受入件数）や、入退院の状況（年間患者数など）を抜粋したもの。病床機能報告は公表されており、圏域の状況が確認できるようになっている。

資料 6 は、新型コロナウイルス感染症に係る北渡島檜山圏域の医療提供体制を取りまとめたものである。

- 公立病院経営強化ガイドラインの記載と同様、当圏域においても、新型コロナ対策において、各公立病院は大きな役割を果たしていることが明確となっている。

また、民間病院・診療所や薬局等からも、幅広くご協力をいただき、圏域の体制の充実に繋がっている。

（急性期機能の削減・集約の経過）

（病床機能報告から抜粋）

医療機関名称	H26（2014）		R2（2020）		R7（2025）見込み		
	急性期病床	割合（％）	急性期病床	割合（％）	急性期病床	割合（％）	補足
八雲町熊石国民健康保険病院	99	24.69	99	33.33	10	8.47	病床数は、先日の再検討を反映
八雲総合病院	214	53.37	108	36.36	108	91.53	
長万部町立病院	30	7.48	30	10.1	0	0	R4 から建替協議開始予定。病床数や機能は未定。
今金町国保病院	0	0	0	0	0	0	
道南ロイヤル病院	0	0	0	0	0	0	
せたな町立国保病院	58	14.46	60	20.2	0	0	機能は急性期と回復期、病床は39～46床を想定して、建替協議中。
国立病院機構 八雲病院	0	0	－	－	－	－	R2.8.31廃院
急仕金増湯医院	0	0	－	－	－	－	R1.12.31廃院
計	401	100	297	100	118	100	H26から283床削減。

建替協議中や協議開始予定の医療機関における病床数の変動が見込まれることに留意する必要があるが、2025年見込みでは、北渡島檜山圏域の急性期病床は大きく削減され、八雲総合病院への集約が進められる。